

第3学年 道徳学習指導案

日時 平成17年10月28日(金)1校時
対象 2組(男19名 女15名 計34名)
指導者 阿部 尚子

- 1 主題名 はたらくって気持ちいい〔勤労4-(2)〕
- 2 資料名 朝のそうじ 出典：学研「みんなのどうとく」3年

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年および第4学年の指導内容4-(2)は、「働くことの大切さを知り、進んで働く。」となっている。この内容は、自分の仕事に責任をもち、最後までやり通すことの大切さに気付き、進んで働こうとする気持ちをもった児童を育てようとするものである。

自分の仕事を責任をもって果たすことにより、仕事を成し遂げた満足感を味わうことができ、他の人からも喜ばれ快い気分になることができる。また、働くということは、自分のためになるだけではなく、社会生活を支えていることにも気付かせていくことが大切である。

中学年では、家族の中の仕事と同じように、社会全体でも仕事の分担がされており、自分の働きが社会の役に立っていることに気付かせていくことが必要である。

(2) 児童について

学級の児童は、明るく元気いっぱいである。困っている友達に優しく声をかけたり、手を貸してあげたりすることが自然にできている児童が多い。

係や当番活動など、自分のやるべきことを最後までやらなければいけないことは理解しているものの、実際の清掃活動では、掃除をいっ加減に行ったり、ふざけて掃除が進まなかったりすることもしばしばある。また、給食当番を忘れていて、呼ばれてからやっと準備を始める児童もいる。このような行動が、周りの迷惑になっていることに気が付けない児童も多い。

そこで、自分が責任をもって働くことで、自分自身もよい気持ちになり、他の人の役に立ち、社会生活がよりよいものになることに気付かせることは大切なことであると考えます。

(3) 資料について

具合の悪い母の代わりに住宅の大掃除に出た主人公が、初めは仕方なく草取りをしていたが知らないおばあさんにほめられたことをきっかけに、草取りに没頭していく。そして、草取りをしながらごみも拾い、父にもほめられる。家に帰ると母にもほめられ、働くことの喜びや嬉しさを感じていくという話である。

家の手伝いや清掃活動はどの児童でも経験していることなので、本資料は、主人公の面倒臭いと思う気持ちやほめられた嬉しさや満足感に共感することができ、進んで働こうとする気持ちを育てるのに適している。

(4) 指導にあたって

1学期初めには、学校での日常の係や当番活動のやり方を確認した。2学期に入ってからは、係や当番活動のやり方を再確認するとともに、これから頑張っていきたいことを学級全体で確認した。

気づく段階では、今までの清掃活動でのよかった点や反省点、どんな気持ちで行っていたかについてふりかえる。

見つめる段階では、主人公の面倒臭いという最初の気持ちに共感させながら、周りの人たちの頑張りを見たり、ほめられた嬉しさを感じたり、やればできるという自信をもったりすることで仕事を続けることができたことに気付かせたい。

つかむ段階では、よいと思うことに気が付き自分からごみ拾いをしたことで、進んで仕事ができたといい満足感をもつことができ、すがすがしい気持ちになれたことに気付かせたい。

広げる段階では、自分の生活の中で続けている仕事をどんな気持ちでやっているか発表し合い、日常生

活へと目を広げ、進んで働こうとする気持ちをもたせたい。

まとめる段階では、これからどんな気持ちで仕事をしていきたいかをプリントにまとめ、進んで働こうとする意欲を高めたい。

事後の活動としては、仕事を進んで行うことを意識付け、よい行いに対しては帰りの会やなかよしポスト等みんなで認め合う場面を作る。これらの活動を通して、進んで働くことの気持ちよさについての意識を高めていけると考える。

4 本時指導の位置付け

事前の体験活動	本時の指導	事後の体験活動
<p>日常の清掃活動 班ごとに割り当てられている掃除場所を掃除する。 学級の係や当番活動 最後まで仕事をす る。</p>	<p>主題名 はたらくって気持ちいい 価値 勤労 4 - (2) 資料名 朝のそうじ ねらい 働くことの大切さに気付き、 進んで働こうとする気持ちをも たせる。</p>	<p>日常の清掃活動 班ごとに割り当てら れている掃除場所をめ あてをもって掃除する。 学級の係や当番活動 進んで仕事をす する。</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

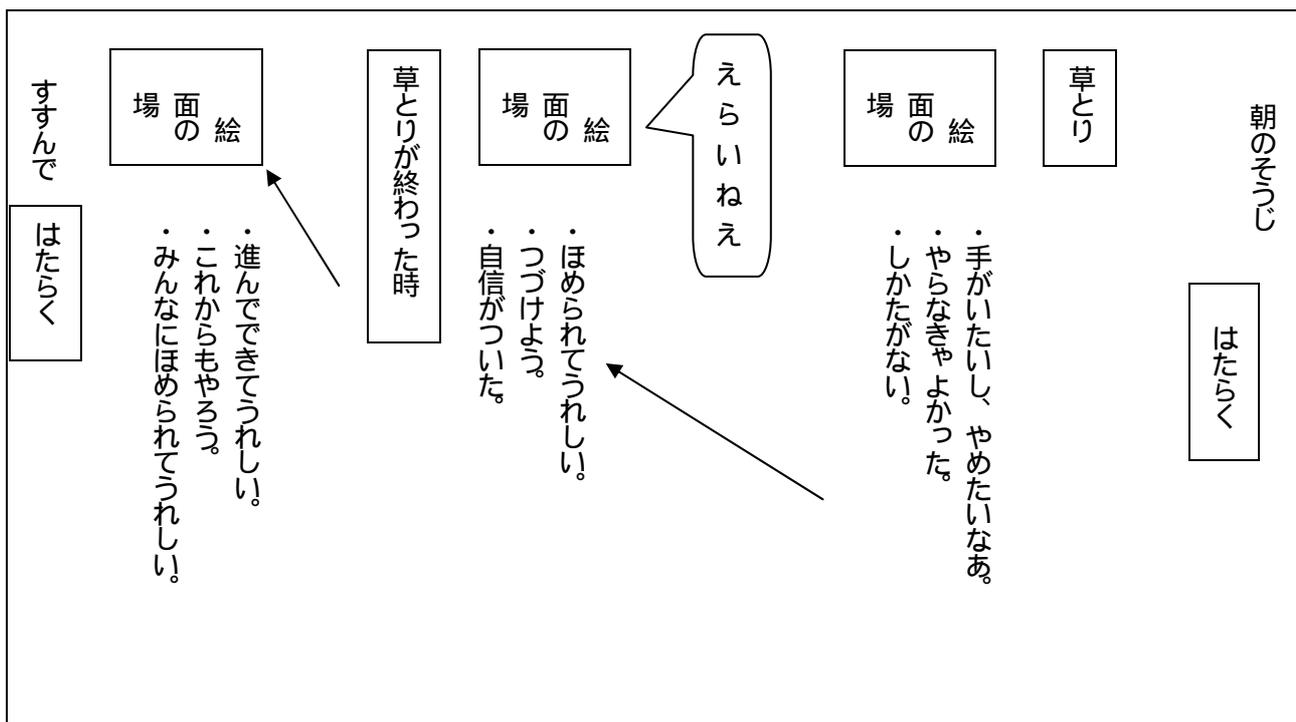
働くことの大切さに気付き、進んで働こうとする気持ちをもたせる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される発言や心の動き	指導・援助の留意点
<p>気づく</p> <p>10分</p>	<p>1 清掃活動をしている写真を見て、その時の気持ちをふりかえる。 どんな気持ちで、いつも掃除をやっていましたか。</p> <p>2 「朝のそうじ」を読み、感想を出し合い、話し合いの方向をつかむ。 思ったことを発表して下さい。</p> <p>はたらいた後にすがすがしくなった「わたし」の気持ちを考えよう。</p>	<p>予想される発言や心の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようし、頑張って掃除するぞ。 ・隅のごみも取って、きれいにしよう。 ・けんかをしないようにしよう。 ・やらなければいけないのは分かるけど、面倒臭いなあ。 ・今日は、掃除がある日か。遊びたいなあ。 ・できれば、やりたくない。 ・掃除がないといいのになあ。 ・頑張って草取りをしてえらいなあ。 ・ほめられて嬉しかったと思う。 ・また、やってみよう。 	<p>指導・援助の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「普段の掃除をどんな気持ちで行っているかのアンケートの結果も紹介し、面倒臭いと思う気持ちもあったことを思い出させる。」 ・マイナス面の感想を否定する雰囲気にならないよう、誰にでもある感情だということをおさえる。 ・「はたらく」ことについて考えていくことを確認する。

<p>見つめる つかむ 25分</p>	<p>3 「わたし」の気持ちを話し合う。 「わたし」は朝早く起きどんな気持ちで草取りをしたのでしょうか。 ほめてもらった後、どんな気持ちで草取りを続けたのでしょうか。 「わたし」の心がすがすがしい気持ちになったのはどうしてでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手が痛いし、疲れたし、やめたいなあ。 ・お母さんの代わりなんてやらなきゃよかった。 ・みんなもやっているから仕方がない。 ・ほめられてうれしい。 ・続けたくなくなった。 ・子どもでもできることがあるんだ。自信がついたぞ。 ・進んで働くことができて気持ちがいい。これからも、草取りをしよう。 ・お父さんやお母さんにもほめられてうれしい。 ・やってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝早いこと、ただ代わりで参加したこと、子どもだから力がなく苦労していることをおさえる。 ・ほめられるということで、自分の気持ちがよくなったこととやればできるという自信につながったことを確認する。 ・進んで働いたことでよい気持ちになったということに気付かせる。
<p>広げる 5分</p>	<p>4 自分の生活をふりかえる。 続けている仕事がありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の係の仕事を忘れないように気を付けている。 ・すみまできれいに掃除をしている。 ・家で箸と茶碗並べを毎日欠かさずにやっている。 	<p>掃除だけではなく、係や当番活動にも目を向けさせる。</p>
<p>まとめる 5分</p>	<p>5 これからの仕事について考える。 係や当番活動をこれからどんな気持ちでやっていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除をさぼらずに、真面目にやりたい。 ・言われる前に、自分からやりたい。 ・係の仕事を忘れずにやれるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをプリントにまとめ、意識を高めさせる。

6 板書計画



7 資料分析

資料名 朝のそうじ

出典 学研(「みんなのどうとく」3年)

ねらい 働くことの大切さに気付き、進んで働こうとする気持ちをもたせる。

場面	お母さんの代わりに朝の掃除に仕方なく参加した場面	草取りしているおばあさんから「えらいね。」とほめられ、うれしくなる場面	掃除が終わりお父さんとお母さんからほめられ、すがすがしい気持ちになる場面
外的状況と主人公の心の動き	<p>お母さんの代わりに朝の掃除に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの代わりだから、しかたがない。掃除に参加しよう。 ・手が痛くなってきた。疲れたなあ。 ・みんなが頑張っているから、しかたがない。続けよう。 <p>しかたがない</p> <p>疲れた</p>	<p>草取りしているおばあさんからほめられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんにほめられてうれしい。手が痛いけど続けよう。 ・わたしも頑張ればできるんだ。自信がわいてきたぞ。 <p>自信</p> <p>喜び</p>	<p>自分からごみ拾いをしたことをほめられる。</p> <p>勤 労</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からごみを拾ってよかった。 ・これからは、ごみを捨てないようにしよう。 ・お母さんにもほめられて、うれしいな。 ・疲れたけど、やってよかった。 <p>責任</p> <p>達成感</p>
児童の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・手が痛いなら、止めてもいいのではないかなあ。 ・もともと代わりなんだし頑張らなくてもいいと思う。 ・やめたいだろうなあ。でも、お母さんの代わりだからがんばらないと。 ・みんなもやっているからわたしもやったほうがいい。 ・大人はえらいなあ。子どもでもできることはやったほうがいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめられてうれしいと思う。 ・続けたくなくなってきた。 ・頑張れば子どもでもできるようになるんだ。 ・やる気になってきた。 ・自信がついたぞ。 ・続けたいけど、疲れたなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、自分から進んで働こう。 ・働かってよい気持ちになるんだなあ。 ・働くみんなもうれしいし、役に立ててよいことをした気分になる。 ・頑張るとほめられてうれしいなあ。
発問	「わたし」は、朝早く起きて、どんな気持ちで草取りをしたのでしょうか。	ほめてもらった後、どんな気持ちで草取りを続けたのでしょうか。	「わたし」の心がすがすがしい気持ちになったのはどうしてでしょう。